

NATURAL VOICE

エール学園支部

教育労働と時間

卒業する彼らとともに

1年の学期を終え、いよいよ卒業の日となりました。日々の授業や学生の成長のあとをゆっくり振り返る暇もなく、成績処理や授業活動の整理に追われるうちに、気がつけば、もう彼らを送り出す最後の日となりました。

『終わりよければすべてよし』シェークスピアの言葉のごとく、よき出会いに感謝し、潔い別れの日にしたいものです。

* * * *

今回は、遅ればせながら講師の皆さんにお答えいただいたアンケート結果をご報告します。これを元に、エールで働く講師ひとりひとりの労働生活の実態や実感をお伝えし、今後の職場のあり方や日本語教師として抱いている将来への望みをみんなで実現すべく、方向づけていきたいと思います。またこの間の支部会、団交の報告をいたします。

この数ヶ月の活動の中で、わたしたちが再確認したこと、新たに自覚したことをより多くの講師・職員のみなさんとこのニュースレターで共有していけたらと思います。この間、講師・職員との会話でよく話題になったのは、時間に追われるという問題です。留学生たちと学び、語り合っ過ぎて過ごす仕事の時間、授業をどう充実させるかひとりで悪戦苦闘する時間、しごとを離れて趣味の世界に心遊ばせる時間、友人と食事しながら談笑する時間、子供たちや家族の話をゆっくり聞く時間、公私それぞれに貴重な時間を忙しい中で、どうバランスよく保ちながら生活するか……。これがじつに難しい。そして、もう一つの重大で深刻な話題は、この低収入で、今後どうやって生活設計をしていくのか。これはエールに限らず、日本語教育に仕事として携わってきた人々がこれまでも、そしていまも同様に語る言葉です。みなさんは、いかがでしょうか。

「言語教育」の発展は、多文化多言語社会を準備し、新しい価値を生み出しながら、今後より大きな社会貢献を果たす可能性を秘めています。「留学生」「在日外国人」という存在も国境を越えた国際文化を創造する担い手です。日本語教育の社会的意義はもっと認められるべきでしょう。しかし、どんな理念や理想を語っても、いまだに私たちの大半が不安定な「非常勤」「時間講師」という労働条件におかれていることは、自由な発想を広げ、活発な教育活動に挑戦する障害となります。 - 自らの未来は自らで切り拓く - 卒業する学生たちに贈る言葉を私たちの胸にも刻みたいものです。

今回、エール学園支部として、はじめて校内に勤務する日本語講師向けにアンケートを実施しました。冬休み前の短期間の実施にもかかわらず、約半数の方々から熱心な回答が集まりました。初めての取り組みのため、質問項目なども見直してみると反省すべき点が多々ありました。発表が遅れましたが、ここに集計結果をお知らせします。ご協力、誠にありがとうございました。みなさんの貴重なこの声を生かして、今後の改善に取り組んでいきたいと思ひます。

***** アンケートについて *****

エール学園での日本語教育に携わる講師の方々の職場環境・待遇への満足度・働き方を中心に 10 項目の質問をしました。

勤務年数を 3 段階(1 - 5 年未満・5 - 10 年未満・10 年以上)に分けてお聞きしました。

アンケート依頼 50 名中 24 名 48%の回答率でした。

* このオンライン版では 数値は公表せず、概要のみ掲載しています。

A エールの職場としての満足度

労働条件	満足	%	不満	%	非常に不満	%	どちらとも	%
------	----	---	----	---	-------	---	-------	---

約 4 割満足としているが 6 割弱はなんらかの不満を持っている

多様な観点で満足と不満の両方の感覚を抱いているようだ。

労働日数は現状がよいとする回答者が多い。

手当	満足	%	不満	%	非常に不満	%	どちらとも	%
----	----	---	----	---	-------	---	-------	---

昇給	満足	%	不満	%	非常に不満	%	どちらとも	%
----	----	---	----	---	-------	---	-------	---

* 手当は 6 割以上が不満 現行の手当は専任・メンターの役割手当と行事・研修参加費などがある。

* 昇給については今期の制度でやや改善したというが、全体の満足度は低い。

労働日数 (エール)	2 日	%	3 日	%	4 日	%	5 日	%
------------	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

希望する日数	増やしたい	%	現状のまま	%	減らしたい	%
--------	-------	---	-------	---	-------	---

* 現在の勤務日数がよいとする回答 6 割以上、他校との兼務もあり、現状維持派が大半。

兼務状況	兼務している	%	兼務していない	%	無回答	%
------	--------	---	---------	---	-----	---

何校兼務	1 校	%	2 校	%	兼務なし	%
------	-----	---	-----	---	------	---

日本語以外の仕事を	している	%	していない	%
-----------	------	---	-------	---

* 日本語以外の仕事をしている講師もわずかながらいる。

講師配置は 講師のキャリアアップにとって重要な意味を持つ。

希望するレベル・クラス(初級・中級・上級)について明確な目標を持つ講師が増えてきている。研修への不満は期待の裏返しでもある。教育機関として講師のニーズにあった研修が求められている。

講師配置	満足 %	不満 %	非常に不満 %	どちらとも %
------	------	------	---------	---------

- * どちらとも の回答率が高い。講師配置の満足度は現在の担当レベル・講師チーム・担当クラスなど諸要素が関わるためと思われる。

研修	満足 %	不満 %	非常に不満 %	どちらとも %
----	------	------	---------	---------

- * この研修への高い不満度は学園側も考慮すべきだろう。
- * 研修機会がないこと・研修内容への不満など、具体的な意見を今後の機会に探してみたい。

B 授業関連の仕事時間と業務の実態

講師は授業準備・後処理にどのくらいの時間を費やしているのか。今回のアンケートでもっとも注目されることだった。5時限の授業・毎週の授業に対応して費やす時間・担当科目・レベル・活動内容によって異なる時間の把握は今度の課題としたい。

授業後の学校での仕事時間

1時間以内 0% 1 - 2時間 % 2 - 3時間 % 3 - 4時間 % 4時間以上 %

自宅での仕事時間

1時間以内 % 1 - 2時間 % 2 - 3時間 % 3 - 4時間 % 4時間以上 %

- * 授業後と自宅での総仕事時間をたずねていないため、この時間が学校や自宅だけなのか、両方含むかが判断できないのが難点。だが、おおむね学校での時間は後処理とつぎの準備、自宅は教案準備だろう。

現在の仕事について

担当科目レベル

非常に満足 % 満足 % 不満 % 非常に不満 % どちらとも %

- * 担当科目については講師が教務・担当レベルの専任メンターなどと協議して決めているため、不満は少ないようだ。

担当者間連絡

非常に満足 % 満足 % 不満 % 非常に不満 % どちらとも %

- * おおむねスムーズにいと判断してよいだろう。

中間・期末試験

非常に満足 4.7% 満足 14% 不満 38% 非常に不満 19% どちらとも 28.5%

- * 試験作成の方法が今期より大きく変化したレベルが多いため、一部担当者の負担が高いという声を反映している。

試験の実施法

非常に満足 4% 満足 27% 不満 32% 非常に不満 18% どちらとも 18%

- * 試験問題の作成法・試験実施法は今期大きく変わった。不満・満足と意見が分かれている。
- * 公正さ・厳密さ・評価の適切さ・実施条件・労働負担などの点から、今回の実施状況を再点検する必要がある。

エール講師の声 * * * * *

以下の内容は自由記述式でアンケートに答えてくださった講師の方々の声です。
選択方式の回答で表現できなかった内容が具体的に書かれています。
この声を必ず、組合要求に生かしていきます。

評価できる点

- 待遇 : 時給が高い・1日5コマある。
学生 : 優秀な学生が多い・比較的學生が素直。
講師 : 先生が親切・講師が熱心で協力関係にある・講師の先生に熱意がある。
教育条件 : 独自の教材がある・カリキュラムがしっかりしている・教材や授業運営が比較的
自由
教材がちゃんとファイリングされている。
クラス編成 : 午前と午後でクラスが変わる
学校運営 : 事務所がちゃんとあるので、分業できてる。研修がある。学生の評価が聞ける。
(教育姿勢が)前向きであること、ただそこで働く人を積み残している気がする。
施設 : 冷暖房がある。

改善が望まれる点

- 学生 : 質のよい学生を入学!学生の学生数が多すぎる入学させてほしい(複数回答)
待遇 : 規模にしては、専任が少ない・専任・メンターの人の負担が大きい
試験作成手当てをもう一度、検討してほしい・テスト作成は過重負担・カリキュラムの工夫して
既成のものを活用することも考えてはどうか
行事 : 学生を外へ連れ出し、日本人と触れ合える機会を作してほしい
教材 : 日本語関連の新刊教材をもっと購入してほしい。(複数回答)
教育体制 : 効果的なメンタリングの導入・クラス人数を減らし、ニーズ別のクラス編成を行えないか。
広い視野で物事を把握できている人が少ない。
研修 : 教師の自主的活動を促進してほしい・研修や会議、コースデザイン発表会など会議が多い
進路指導 : 大学・入試情報をもっと提供してほしい・学生に調べさせるなら、資料室の充実を。
担当者の研修も必要・説明会も十分とはいえない・進路状況に影響がでている
施設 : 校舎を一箇所にしてほしい・学生の座席を改善してほしい・施設アンケートが反映されない。
教室が狭い・今の教室の広さで行くなら人数縮小が望ましい
その他 : 学生のアンケートの信頼性・教師のアンケートをとってほしい・教師のレベルがさがってきている

【講師給と労働時間】 組合として、また契約講師個人としても、日本語教師の賃金として、現状のこの「時間給」をどう考えるか、重要な課題です。ひとつは現在、学園から提示されている「講師単価」について、直接授業にかかわる以外の業務も含んでいます。「手当」についても「すべて込み」の不透明なものであり、この業務をこなす上で、定時を大幅に超える場合は「残業」と見なして扱うべきものも多いのではないかと思います。

また能力給とみなされる「講師単価」は各講師のキャリアアップ・成長との関連で今後のランクアップ(たとえば経験年数・レベル担当回数に応じた加算)がどう構想されているのか、明確な考えを示してほしいものですが、まだ十分な回答を得ていません。この点は組合も望ましい待遇を求めて追求していくつもりです。

残業代・時間単価をめぐる学園との交渉は長期化すると思いますが、その根拠として業務実態の具体的な量と質について豊富なデータを示すことが必要だと組合は考えています。学園も講師の給与体系を今後、整えていく方向にあります。新学期のスタートを期して、この課題で活動する予定です。「どんぶり勘定」と「講師同士の助け合い」のハードワークで乗り切る時代はそろそろ終わりにしましょう。今後とも、ご協力お願いします。

学園との団体交渉

さる2月9日(金)午後4-6時 及び、2月21日(水)午後6~7時半

組合より以下の申し入れにより、学園との団体交渉が行われました。

主な内容は 専任の退職金規定要求への回答 次期の講師契約条件について です。

については学園は講師に対しては退職金規定はないため、「退職金」と位置づけず、「講師退任慰労金」として回答しました。規程する条件は専任講師として就任した日から退任時までの期間を通算。非常勤としての期間は除く。勤続年数10年以上15年未満で10万円あとは5年単位で金額が加算されるという内容でした。

これについては、学園側の案を受け入れられないとし、提案を持ち帰り、後日、組合の代案を提出しました。

- * 1 全講師のコマ数に今年度と同等のコマ数を保証すること
- * 2 時間単価のベースアップをすること
- * 3 メンター担当クラス数を1クラスにすること

1について、全講師について交渉できない。個別案件となる。学園側はこれまでもクラス数減に応じて調整を依頼してきた。継続雇用を努力するが、保証は別との回答でした。

これに対し、組合は最低限2日担当講師1日への減コマは認めない。教育条件・講師待遇ともにおおきなダメージがあるため、反対する、クラス人数を減らすことなどにより、緩和できないかと主張しました。クラス人数は考えられない、コマ数調整はやむをえないとの回答でした。

2については「単価のベースアップ」は考えていない。あくまで講師個々のフ評価で決定との回答。現行のS・A・Bランクは固定かとの問いには、固定でないとの回答でしたが、明確な判断基準は示されていません。今後も交渉を通じて具体的な回答を引き出すべき事項です。

3については、中上級メンターについて2クラスの学生を抱えては、業務的に負担が大きき無理があるとのことから要求しています。これには来期、4月より業務改善のリーダーシップを職員がとり、システムを確立することを通じて改善したい。専任職員会議などで提案したいとの回答でした。

次回、団体交渉は3月第3週に予定されています。

エール学園支部会

- 2回 1月19日(金) 団体交渉・アンケート集計について・今後の活動方針など
- 3回 2月1日(木) 団体交渉 申し入れ事項について 新年度契約交渉について
- 4回 2月20日(火) 活動報告 学園との交渉準備 一般非常勤講師の労働条件
- 5回 3月5日(月) 活動報告 学園との交渉事項について(講師契約団体交渉)

次回支部会は団交日程が決まりしだい、決定します。講師契約の個人交渉について不安をお持ちの方、組合に相談したい方は、どうぞお気軽に声をかけてください。

今回からは、講師の方々にエールでの授業の日々を綴っていただきます。
最初のこの筆者……だれかって？ フフフッ、それは編集子のみぞ知る、秘密情報で～す。

授業は「天気予報」？

DDT、PCB、フロンガス、ダイオキシン、有機スズ。 オゾン、二酸化炭素、リン、窒素。これらはみな化学用語。明日の読解 の授業で、環境用語を教えなければならない。わたし、化学は苦手だったのよねえ。それを学生に教えるなんて、ハアア。でも、とにかく調べるしかない。まずは辞書の用意。小学生用、中・高校生用、広辞苑それでも納得がいかない時にはインターネットを使う。ほかにも水質汚染、大気汚染、酸性雨、オゾン層破壊 などなど。なんとなく理解しているだけでは、学生には教えられない。ましてや、わかりやすく教えるとなるとワザがいるのだ。一方的に教えるのではおもしろくないから、クイズも入れる。

「地球上には水がたくさんありますが、そのうち人間が使えるのは何パーセントだと思いますか。」

答えは？ 「……………」

(学生の答えを受けて)「2.5パーセントです。その水を人間が汚しています。」「……………」

など、いろいろとイメージトレーニングしながら、時間をかけて授業の準備をする。

重い内容だけど、楽し授業になったらと思いつつ。そしていざ、授業。おお、イメージどおりだと内心ホッとしたのもつかの間、「先生、この有機スズの『有機』って何ですか。」と質問されたのだ。ガーン！つめが甘かった。

「わからないので、調べて次の時間に説明します」と逃げる。でも、質問するだけいいか。

時には、学生同士が韓国語、中国語でおしゃべりを始めるから、音声多重放送の教室になり、授業が成立しなくなってしまう。なかなか思いどおりの授業はできないと嘆き続けているが、それでも、ある時は、理科の教師、ある時は相撲の解説者とメグズに七変化をする日本語教師なのである。(笑)

なんじゃもんじゃ 記